

1 昆虫を呼び寄せて花粉 2 イ

3 ウ ↓ エ ↓ イ ↓ ア 4 ② エ ⑥ イ 5 (記述題)

6 ア 7 蜜標がくった虫 8 B ア C エ

9 蜜のありか 10 やじろべえ 11 イ

2 額 1 a 額 2 b 課 される 3 c 工程

d 製粉 e 放心 f 接点

2 ① 足 ④ 目 3 ウ 4 イ 5 A ウ B イ C ア D エ

6 ⑤ く ⑥ ア 7 無骨な求道者 8 (記述題)

9 ウ 10 普段はパン 11 (記述題)

1 5 花の種類の識別できず、飛ぶ力の
あまの種を識別できず、
のへりと強くくなく、
花の種を運ばせると同じ種類の

2 8 地道で厳しいう作業を大変だとも思
わず、こなし、ていくと価値も思

11 さっき初めて会ったばかりの人間
の前のき初めに会ったばかりの
の素直さで涙をこぼせたり、
らもさうをうまうしさを感
じてい

(同意可)

(同意可)

(同意可)

〔配点〕
1 1
5 4 10
2 2
8 1 2 6
11 各 4 点
各 6 点
各 2 点
× × ×
14 3 13
|| || ||
56 18 26
点 点 点

1 直前に「それは」とあるので、結局その指示内容を読み取る問題とわかるだろう。直後の文も同じ内容であるが、ここどううまくつながらない。定石にしたがって、何が「同じ」なのかを考えた上で、直前の内容を読み返すのが上策であろう。

2 直後の内容が決め手になる。どちらが先なのかはわからないが、「春先には黄色い花が咲き、黄色い花にアブが来る」という関係性ができあがっているのだ、という文脈を読み取りたい。アの選択肢は一見正しそうだが、よく読めば前半部分と後半部分が同じことを述べていることに気づけるだろう。ややこしいと思ったときほど、集中していねいに読むように心がけたい。

3 「アブをパートナーとする」ことの「問題」が語られている部分である。指示語と接続語の働きをきちんと理解して正解につなげた。ところが、アブは…はハナバチとの対比なので、**ウ** **エ**となる。「これは植物にとつては、都合の良いことではない」につながつていくのは、アブの性質が書かれている **イ**と **エ**だが、「ところが」「そして」という接続語の働きを考えれば、順序は決まる。

4 ② タンポポがタンポポの花粉を運ぶことはない。タンポポの花粉はタンポポへと運ばないと種子はできないのである。

⑥ ここでの「ほど」は「小学校の…」という例を挙げて、それくらいに「身近に見られる」というつながりをつくっている。

5 「集まって咲く」のは、アブに花粉を運んでもらうためであろうが、直前の「こうして」からたどれば、「飛ぶ力」についての内容を無視できない。あとは指定語句の「識別」をどう組み入れるかだが、3の問題を解くときに読んだところは見逃さないであろう。

6 直後の段落で「たくさんの花粉を…」、その次の段落では「同じ種類の花を識別して…」。「遠くまで…」とあるので、並列表現にも注意しつつ、この三つをまとめたものを解答に選びたい。もつともイは「目が良く」、ウは「休みなしで」、エは「蜜」も気になる。

7 「ホトケノザ」の例に限定しているので、「スマイレ」のところまではいかずにさがしていきたい。その「選抜試験」をクリアして、「蜜にありつくことができ」たのはどのような虫だったか。指定の字数があまりに長いので、落ちついて数えたい。

8 Bは直前の「この花びら」||「下の花びら」であることに気をつけたい。「着陸する」のにふさわしいとえはこれしかない。Cは「花びら」から「花の奥に向かって蜜標(=斑点のような模様)が続いている」と書かれていることからイメージしてほしい。

9 スマイレは「下の花びら」に「白い模様」があるが、これがホトケノザなら「下の花びら」にあるのは「斑点のような模様」であり、答えは「蜜標」としたいところだが字数が合わない。問題文の「何を示すもの」とかという問い方もヒントにはなる。

10 単なる知識問題ではない。直後の「バランスを保っている」をヒントとして、郷土玩具などでよく見る「やじるべえ」を思い出せただろうか。意表をついた問題だが、実際の入試でも文脈から適切なことばを呼び出す能力が問われることは決してめずらしくない。

11 消去法でも解ける問題。アの「ホトケノザ」は紫色である。ウは「入学試験」があるので「うまくいかない」はおかしい。エの選択肢が誤った内容であることは、問題4の②を考えただけでも気づけることである。イの内容は本文の最初に書かれていた。

2

1 aは「額」が「おでこ」のことと気づかず当て字の二字熟語を書いているか。bの「課す」は同じ読みで「化す」「貸す」などもあるので使い分けに注意したい。cの「工程」も同じで「行程」との識別を明確にしたい。これはパンを作っている場面である。dの「製粉」は小学生が日常的に聞く言葉ではないが、「セイフン」だとほぼこれしかない。ことばを知らなくてもイメージして正解に持ち込めたかもしれない。e「放心」は「気がぬけてぼんやりすること。fは「接する点」のことなので、字のままの意味である。

2 ①は「客の出入り」をあらわすことば。「客足が遠のく」と言えば「来る客が少なくなる」ことを示す。④は「好意的に見ること」を示すことば。その人やものに肯定的な評価をしていることから、悪いと思わずに好ましく見てしまうことを表現する。

3 「そう思うことができた」を具体化すれば、「世の中は私が思っているよりも上等だと思えることができた」となるが、問われているのは「なぜ(世の中が)上等だと思えたのか」ということである。素材で地味なもので、特に宣伝もしていないようなのに、店に客足が途絶えない、というところを参考にしたい。この内容を受けて、「上等だ」と思っているのである。

4 「ふさわしくないもの」を選ぶことに注意。本文十行目から、本当は「パンを焼くのがまったく初めて」だったので、いろいろみんなに聞いてみたかった、という感じが感じとれる。このときはまだ陽子ちゃんを陽子ちゃんとは認識していないのである。

5 A「つるつる」は「なめらかなさま」をさすことばだが、ここではみんなの口から場に合ったコメントがすらすらと出てくる様子をあらわしている。パンの食感をイメージしてBに「ふわふわ」を入れるとうまくいかない。このことばは、陽子ちゃんの若さから「地に足がついていないさま」を示すDに入りたい。「しみじみ」は「深く心にしみるさま」を示すのでB、「ぐずぐず」は二人が帰るか帰らないのか、「行動や決断に手間取るさま」をあらわしていたのでCに入れるのがふさわしいであろう。

6 「くまなく」は「行き届かないところがないように」という意味になる。「アイデア」は意味を調べれば「思いつき」や「着想」ということばが出てくるが、「おもしろい考え」というニュアンスを感じたい。

7 直前に「地道な作業を淡々とこなす」とあることも参考になる。そういった「主人」の姿が描かれていた場面を読み返したい。

8 もちろん「…人(の存在)」というような文末でしめくくってもいいだろう。同じ段落の「地道な作業を淡々とこなす」を使って答えてもよいが、字数の指定を考えればもう少し具体化した答えにしていくことも考えたいところである。

9 7の問題と同じように、これも比喩表現にスポットをあてたものであり、まさか本当にけがをしたわけではないだろう。ア・イ・ウはいずれも正しいと言えそうだが、この直前の文に「私たちの間の共通点はたったひとつ」とあることが解答の決め手となる。この共通点が「打撲を負った」ことなのである。アは「私」、イだと陽子ちゃんに限定された内容になってしまう。

10 本文八行目から書かれていた。その詳しい動機は「今となつては思い出せない」とあるものの、「私」なりには考えている。

11 「この様子を見たあの」が答えを決定づけている。字数は長くとも、今回の記述問題の中では最も書きやすいものであったにちがいない。両価的な心情をおさえる典型題でもあり、確実に得点につなげておきたい。